20210411レムナント教会1部

**カナンの正体2(聖絶)** **(ヨシュア11:21-23)**

　未信者にも知られている有名な聖書の箇所があります。皆さんもご存知のようにヨハネ3：16「神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである」。この世は滅びるしかないところだと、それを大前提にしておっしゃっています。

　クリスチャンの自分はこの世を実際どのように見ているのか、これは非常に大切で実際的なテーマになります。そのことによって信者としてこの世の中で勝利者になるのか、あるいは信者なのにこの世で引きずられて失敗する信者になるのかが決められるようになります。この世を聖書が見ている通りに見る信者であれば、最高に価値ある人生を歩くようになります。短い一回限りの人生です。そうでなければ意味のないまま振り回されて人生終わってしまう残念な結果になってしまいます。この世を神様がご覧になるのと同じ目で見ている信者は、未信者と同じ仕事に当たっているとしても全く違う仕事をするいわばOnlyの人として生きるようになります。それが仕事をないがしろにするものではなくて、ただ仕事を誠意をもって一生懸命やる人でもなく、神の仕事として聖なる人生を送るようになります。これほど信者なのにこの世はどういうところなのかをどのように見て理解しているのかということは非常に大切なテーマになるということです。

　今日の聖書の箇所の最後の部分だけ読んでいただきました。この聖書の箇所は、モーセのときから神様がカナンの地に入ったときにはその原住民あなたがたを歓迎せずに敵対する者がいれば一人残らずすべて殺して追い出しなさいと命じられましたことの実行です。イスラエルを拒否したり、イスラエルに敵対するカナンの原住民に対して神様はそのように命じられたわけです。それを今日の聖書には聖絶という言葉を使って説明しています。これを見て、神様は残酷な方ではないのかと言う未信者もいますが、もちろん人間の私たちが神様のすべてを全部理解できるわけではありません。しかし、少なくともご自分のひとり子を私たちのために十字架の犠牲のいけにえとして捧げられる方であれば、人間に対して残酷ということは当てはまらない話だということは分かります。すべてその深い部分まで理解できないところもありますが、しかし、この聖絶ということは、カナンを考える上で欠かせないテーマです。カナンと言われたときには、その中の一つのテーマが聖絶になります。カナン＝聖絶。なぜ神様はそこの原住民、特に神の民イスラエルを拒否する者に対してこのような徹底的な聖絶を命じられたのか。それがカナンの正体であり、そして、その聖絶が持つ意味はどういうものなのかということを私たちは正しく教えられなければいけないと思います。

　まず第一に、一人残らず徹底的に洗いきよめて追い出しなさいと言うことが聖絶というものですが、

1.それはこの世にはキリストの他に希望はありませんということをイスラエルの民に刻印させる神様の導きです。

　これがカナンの正体であり、聖絶の正体なのです。

私たちが一見、この世の中を見てみると、このように見えます。世の中は時間が経てばたつほど技術や文明が発展しているところなのだと。そして、そのおかげで生活が昔と比べるとだいぶ便利になってこれからもどんどん便利になっていくだろうと。車の運転免許もいらない時代がもう目の前に来ているわけです。だから、そういう世の中を見ながら一見、この世はどんどん良くなっていると見る見方を持つようになります。本当にそうなのでしょうか。生活が便利になればそれで良くなると言い切れるものなのでしょうか。スマホによって自分の手元にテレビを持ち歩くようになる。私の小さい頃は考えられないことでした。非常に便利になりましたけれども、そのおかげで電話番号などを暗記する能力は失っているわけです。テクニックと知恵とは全く違うものだということを忘れてはいけません。何かが発展していくようになれば、それで良くなると単純に勘違いしますが、そんなに単純な話ではありません。

　なのでこの世を冷静に見てみると、実はそうではないのです。そのように便利になり発展していく一方で、地球全体は悲鳴を上げているのです。その発展のせいで地球全体は悲鳴を上げて、それが今私たちひとりひとり個人にもその結果が襲い掛かってきている時代なのです。そして、発展しているのにもかかわらず、昔から戦争は絶えないし、自然災害や災難などもずっと続いています。むしろ科学の発展によって戦争の武器と言うものはより強力なものになりつつあります。

それから、この発展などによって儲かるものがいる反面、逆の人間もたくさんいてあらゆる分野において格差と言うものは深刻な問題になります。国と国との間の格差もあるし、食べ物が余り過ぎてその処分に困っている国がいる反面、一日一回も食事ができないまま飢え死になる国が世界中にはいくらでも今存在しています。これがこの世というところなのです。なので発展と便利さとの中で、実はひとりひとり人間の精神的な健康などを見ると、昔と比べて何も変わらないどころか精神的な健康はより悪い方向に進んでいるのではないでしょうか。なので個人ひとりひとりに問いかけてみると、本当は全く幸せがないし満足も持っていません。冷静に見ればそうなのです。なので今の若者たちは、この世に対して良くなるだろうとユートピアを目指している楽観論と逆にそんなに期待していても結果的に駄目だということで悲観論というものが入り交ざっている時代を今私たちは生きています。なので若者たちは混乱しています。特に厳しい国の人たちは、厳しさそのものに耐えることで精一杯だけども、でも先進国、発展している国の安定しているところの若者たちは混乱しているのです。良くなるものなのか、そうではないのか、よく分からない。なのでよく分からないよ。 I don't know。それで適当に生きようじゃないかという状態なのです。何かを真剣に深刻に考えることはやめようと。そういう時代を今私たちは生きているのです。そして、その結果、皆が希望としては良くなってほしい、良くなっているだろうと思うのにもかかわらず、昔から宗教はなくならないまま、むしろいろいろな新興宗教が次々と起こされて、また偶像崇拝もあらゆる形を変えてずっと続いているし、また占いなども時代が変わっても繁盛してるし、知識や科学が発展しても別にロケットを作る人たちが占い師を訪ねるようなことはずっと続いているので、こういうことがむしろこの地球、この世には希望が全くないということの裏返しのようなものではないでしょうか。なので私たちはこのような時代を生きながら、この世は一体どういうところなのか、どのようにこの世を見て向き合っていかないといけないのかということを聖書を通して正しく理解して、それを自分のものにしていかないといけません。

　聖書は一瞬たりとも迷わずに、この世というところは神様を離れているところと明確に宣言しています。それがどういう意味なのかと言いますと、エペソ2：1「自分の罪過と罪との中に死んでいた者であって」と、これがこの世の実像です。そして、神を離れているということは、それが何を意味するかと言いますと、ヨハネ16：11、皆さんの目には見えないけれども、この世が発展しているのにもかかわらず、実は逆方向に転がっているかのような世の中になるしかない理由がここにあります。ヨハネ16：11、世の神、悪魔、サタンと言われているものが世の神として、それをエペソ2：2には「空中の権威を持つ支配者」と言われています。神を離れた途端に、この世は目に見えない暗やみの主人である悪魔、サタンが支配するところになりました。これがこの世の定義なのです。その悪魔は黙示録12：9にも全世界を惑わす者、世界を自分の思うがままに動かして操ることができる力と知恵を持っているすごいものなのです。そのものによって支配されているところが、この世というものなのだ。神を離れたことによってそのようになってしまいました。

なのでこの世というところは現状がどうであれ、根本的に希望などは存在しないところなのです。それがこの世なのです。この世、自分だけでは、希望などは見当たりません。なのでエペソ2：3には+それから、この発展などによって儲かるものがいる反面、逆の人間もたくさんいてあらゆる分野において格差と言うものは深刻な問題になります。国と国との間の格差もあるし、食べ物が余り過ぎてその処分に困っている国がいる反面、一日一回も食事ができないまま飢え死になる国が世界中にはいくらでも今存在しています。これがこの世というところなのです。なので発展と便利さとの中で、実はひとりひとり人間の精神的な健康などを見ると、昔と比べて何も変わらないどころか精神的な健康というものはより悪い方向に進んでいるのではないでしょうか。なので個人ひとりひとりに問いかけてみると、本当は全く幸せがないし満足も持っていません。冷静に見ればそうなのです。なので今の若者たちは、この世に対して良くなるだろうとユートピアを目指している楽観論と逆にそんなに期待していても結果的にこういうものではないのかということで悲観論というものが入り交ざっている時代を今私たちは生きています。なので若者たちは混乱しています。特に厳しい国の人たちは、厳しさそのものに耐えることで精一杯なので、でも先進国、発展している国の安定しているところの若者たちは混乱しているのです。良くなるものなのか、そうではないのか、よく分からない。なのでよく分からないよ。 I don't know。それで適当に生きようじゃないかという状態なのです。何かを真剣に深刻に考えることはやめようと。そういう時代を今私たちは生きているのです。そして、その結果、皆が希望としては良くなってほしい、良くなっているだろうと思うのにもかかわらず、昔から宗教はなくならないまま、むしろいろいろな新興宗教が次々と起こされて、また偶像崇拝もあらゆる形を変えてずっと続いているし、また占いなども時代が変わっても占いは変わっていないし、知識や科学が発展しても別にロケットを作る人たちが占い師を訪ねるようなことはずっと続いているので、こういうことがむしろこの地球、この世には希望が全くないということの裏返しのようなものではないでしょうか。なのでエペソ2：3には「生まれながら御怒りを受けるべき子ら」として生まれるとあります。生まれながら。運命そのものが希望などとは縁のないところなのです。それを旧約の聖書にもイザヤ60：2を見ると、やみが諸国をおおい、暗やみが全世界をおおっていると表現しています。これが聖書が私たちに教えているこの世の実情です。私たちの目にはそれが映らないのでしょうか。クリスチャンだけにそれが映るようになっているのです。どうやってそれが分かるのか。いろいろな現状を見ながら把握することもあるでしょうけれども、みことばにそう書いてあって、それが現状とぴったり合うわけです。みことばに書いているものは私たちの肉眼では見えないものなのです。けれども、事実です。目に見えるだけが事実ではありません。そうすると信仰とは全く関係ないかけ離れて人生を送るしかないでしょう。2部の礼拝でもそのことについて、もう少し詳しく申し上げるつもりですが、信仰は、目に見えない事柄の保証でありと。皆さんが考えてみていることがすべてだと思うともはやクリスチャンとしての力は全く期待できません。今目の前にあることがすべてだと思うと信仰とは関係ありません。天国は見たこともありません。みことばに約束されています。まだ来ていません。でも、それが事実なので、それを信じてあらかじめ見て今日を生きるということを信仰と言います。天の御座の祝福が私たちに届きました。見えません。しかし、みことばに書いてあって、その根拠はイエス・キリストなのでそれが私に臨まれているということ、それが事実なのです。目に見ませんけれども。それを信じて、それを見るわけです。そうすると、選択が変わります。チョイスが変わります。この世は根本的に希望などないところです。

しかしながら、これを知らないこの世の人たちは、それでもどうにか希望があるところだと主張したいし、どこか希望を託したいんです。それで、いろいろあったのにもかかわらず、私たちは努力して克服してきたのではないか。これからも同じなのだよと。それは克服してきたものではなくて、この世は全く希望のないところだと教えたにもかかわらず、それを拒否して違うところに行っただけなのです。なのにそれでも人間があきらめずに努力すれば、そこに希望は待っているだろうと。あるいは自分磨きを通して希望が見いだせるよということで、今の時代は皆瞑想に走るわけです。自分の中にいろいろ汚れものがいっぱいあるので、それをきれいに洗ってかっらぽにすれば奇跡が起こると。もちろんそれで病気も治ります。しかし、それは本当のいやしではありません。人間は、空っぽにして人間になれるものではありません。そこに悪霊が入るか、聖霊が入るか、どちらか一つなのです。だから、空っぽにすると、7倍も力強い悪霊がそこに入ってくるようになるものなのです。聖書は一度も「あなたがたは空っぽにしなさい」と言われたことがありません。聖霊に満たしなさい。みことばに満たしなさい。イエス・キリストに満たしなさい。信仰で満たしなさい。悪霊は全部反対に嘘をつくものなのです。自分磨きによって希望が見いだせるのでしょうか。今までも頑張って、あらゆる部分で発展を遂げてきたのではないのか。だから、これからもとんどん発展していくことは間違いありません。その発展に希望を託しましょうと言います。しかし、この世がどういうところなのかを本当に正しく分かったならば、そういったものに希望がないということは明白なのです。なので神様はこの世を象徴するカナンの地に入ったときに、そのカナンのものを一つも残さずに全部追い出しなさい。ここはキリストが来られるための約束の地、キリストだけなのだよとおっしゃるのが聖絶なのです。残酷さというものの方に目が奪われていてはいけません。つまり、この世が正しく分かったならば、希望は一つしかありません。だから、Onlyになるのです。聖書はOnlyの他に何も言いません。

希望は最初から神様はこのほかにおっしゃったことはありません。創世記3：15、女の子孫が生まれて、蛇の頭、世の神と言われて今も空中の権威を持つ支配者、悪魔の頭を踏み砕いて勝利すること以外には、希望はありません。その方がキリストなのです。だから、この世に希望はキリストの他にはありません。これが聖絶の正体なのです。イスラエルの胸に刻み込むために。もちろんイスラエルの人たちはさっぱり分かっていないまま、また失敗の繰り返しの歴史を走るようになりました。でも今は、イエス・キリストが一人一人皆さんの内側に来ていらっしゃいます。聖霊が宿っていらっしゃる神の神殿なのです。なので、このお話が分かる幸いな者になっているのです。希望はキリストの他にありません。ヨハネ1：9に「すべての人を照らすそのまことの光が世に来ようとしていた」。暗やみには光の他には希望などありません。前にも申し上げましたように、暗やみの中で暗やみそのものが自分を磨いたからといって暗やみがなくなるわけではありません。そこでどんなに発展を遂げていても発展によって暗やみが消えてなくなるわけではありません。暗やみがなくなる方法は一つしかありません。光が入ってくること以外には方法はありません。Onlyなのです。光はイエス・キリストだけです。自分の罪過と罪との中に死んでいたので、その死に必要なのは化粧することでもなく、栄養を上げることでもなく、筋肉をつけることでもなく、死が終わるのは一個しか方法はありませ。いのちが入ってくること以外ありません。私はいのちであり、イエス・キリストの他にはいのちはありません。なのでOnlyなのです。この世が暗やみにおおわれて、世の神、悪魔、サタンに支配されている希望のないところだということが分かれば、この世に希望はキリスト、いのちであり光であるキリストの他にはありませんということを神の民に刻印させるのが聖絶の正体です。

　なので言葉を変えますと、第２です。

2.カナンの聖絶というのは、信者、クリスチャンがこの世に存在する理由は、希望のないこの世に希望のキリストを伝えるためなのだということを刻印させるためなのです。

　それが聖絶です。それが正体です。残酷どうのこうのに気を取られていてはいけません。信者の皆さんの存在の理由は、キリストを伝えて神の国が臨まれるようにすること、これこそが存在の理由です。いつの時代のクリスチャンでも、どこのクリスチャンでも、年がどうであれ職業がどうであれ、その人の教養や性格がどう違っていても、生きる理由、存在の理由は、共通して一つしかありません。それが聖絶の正体なのです。徹底的に皆を絶滅させることによって、この世に希望はキリストしかない、だからこそ、あなたがたの存在の理由、イスラエルの存在の理由は、そこら中の国とは違うのだよと。なのでクリスチャンであれば、このように問われたときに「あなたはなぜ生きていますか」「あなたの生きる理由はなんですか」と聞かれたときに、一瞬も迷わずに「福音宣教のためです」と言うようにならないといけません。そこが一番肝心なポイントです。それは負担で訓練を積み重ねることによって得る資格ではありません。クリスチャンの存在の理由なのです。迷わずに。ここがなかなかこの通りにならないので、柳先生のメッセージが理解できないし、祈りが何かが理解できないし、講壇のメッセージが自分のものにならないし、聖書を読んでも読みたくないし、そうなるのです。そういう残念な期間が延びるだけなのです。ここが今回のリーダー修練会、レムナント大会での一番のテーマで、これが答えなのです。これがない限りは次に進まないのです。なぜ生きるのか。もう天の御国を所有しているので今日死んでも天国に行けます。そこは受験もありません。競争もありません。病気もありません。行った方がいいのではないでしょうか。しかし、天使にもできない、天使にも許されていない、まかせていない、福音宣教という最高のイエス・キリストしかできない仕事のために世に残されているわけです。聖絶を通して神様はイスラエルにそれを見せられました。あなたがたは神の子どもなので、何を食べるか飲むかはもはやテーマではないのだよ。そこら中の人とあなたとを一緒にしてはいけないよ。あなたは神の国とその義を第一に求める存在なのだよ。だから、あなたは世の光であり、王である祭司と呼ばれる者なのだよと。どこの大学、どこの会社なのかというのは重要ではありません。皆さんが大切なのです。なぜ生きているのかに対して、迷わずにこの世にキリストを伝えるために、福音宣教のために、いのちのためにという答えが迷わずにでるようになったときに、それが明確になったときに、初めてそれを中心にして自分の人生を整理することができるようになります。それが先週の2部礼拝、つまり、リーダーの１講義の内容なのです。なぜ生きるのかの答えが出ていない限りは、過去の傷に対しても解釈ができません。悪いのは悪い、嫌なのは嫌、好きなのは好き、そのままなのです。変わらないのです。でも、この答えを持って、これに照らして傷を見たときに、嫌なものも答え、大変だったことも答え、裏切られたのも答えになっちゃうわけです。暗やみが全部光に変わるわけです。それをいやしと言います。私を殺そうとしていた人間も答えになっちゃうのです。世界中どこに行ってこのような薬がもらえるのでしょうか。そして、このなぜ生きるのか。この答えが明確になったときに、人生を整理するようになり、そのときに神のみことばが整理されるようになり、神のみことばが整理されるので祈りが整理されるようになります。何も難しいことではありません。もちろん神様の恵みによるものでしょうけれども。その時にやっと自分自身と自分に許されている一回限りの人生が最高に価値あるものだということを確認することができ、自負を持つようになります。どこでどういう仕事をして経済的な状況がどうなのか、学歴がどうなのかと一切関係なく、自分自身と自分が生きる自分の人生は最高の価値なのだと。これがクリスチャンです。神様は皆さんをこのような最高の価値ある人生を歩んでもらうために召されて今も導いていらっしゃるのです。もちろんこの世のものはいらない、世のものは悪いという単細胞的な幼稚な話ではありません。学問は必要なものなのです。芸術は悪くありません。法律も必要なのです。世の常識も必要なものなのです。お金も悪いものではなく、必要なものなのです。ただそれに希望を託していてはいけません。それは希望にはなりません。なのでそれによって希望と絶望が左右されてはいけないものなのです。それに捕らわれていてもいけません。希望はキリスト、このキリストが宣べ伝えられる福音宣教の他に、この世に希望はありません。それが聖絶の正体です。

神様は教え上手の教師です。様々な教材を取り上げて、自分の民に教えるわけです。だから、明確に必要なものと希望と分けて考えましょう。必要なものと希望とは別の話なのだと。

　なのでまとめましょう。この世を事実その通りに聖書を通して正しく分かって、その世を生きる自分が誰なのか。なぜ存在するのか。それが正しく分かったときに私たちはこのようなクリスチャンになります。この世を恐れない。この世を羨まない。この世に縛られない。この世に未練など持たない。それがクリスチャンの世に対してのスタンスなのです。ならこの世はどんなところなのか。この世はあくまでも宣教地なのです。宣教地だから、そこで趣味もないのか。遊ぶこともできないのか。違います。でもメインがあるわけです。この世を宣教地として生きるので世の中の人と競争などはしません。何が競争相手なのでしょうか。地獄と天国と天の御座と暗やみの世界とどうやって競争できるのでしょうか。だから、負けてあげる、譲ってあげる。そうなるのです。勝利は分かっているので。アップアップしないようにしましょう。とてもすてきで格好良くこの世を生きることができます。この世に私たちは宣教師として派遣されています。恐れるところでもなく、羨むところでもなく。だから、この世に対してのこのようなスタンスがただの理論ではなくて、実際レムナントの小さいときからそうだという答えが刻み込まれるようになれば、そのレムナントによって日本は変わります。それがなかなかレムナントにも刻まれないのです。レムナント教育というものは、レムナントが易しい人間に育つためのものではなくて、自分の存在の理由が何なのか、だからこの世を見るときに宣教地として見て宣教師として生きます。宣教師が宣教地に入ってその宣教を受ける人々と喧嘩したり競争したりするのでしょうか。基本的にいのちを与えようとして行ったものがそこで肉の様々なテーマによって争ったり喧嘩したりすることはないでしょう。同じなのです。皆さんがこの世に対して宣教師として送り出されている者であれば、その答えが明白に皆さんのものであれば、特に小さい頃からたましいに刻まれているのであれば競争などしないのです。レムナントは小さいから分からないだろうと思ってはいけません。たましいによってこれは分かるものなので、ありのまま教えて、また教え続けないといけません。聖絶というものはOnlyイエス、そこに違う何かが混ざってはいけないという意味がそこにはあります。なぜならキリスト・イエスの他に希望はないわけですから。イエス・キリストだけが道であり、イエス・キリストで十分であり、イエス・キリストで終わり、イエス・キリストで完璧に幸せなのです。そこを外してはいけません。これが聖絶が意味するメッセージです。そのときにクリスチャンの皆さんは、今タラッパンで言われている御座の祝福の主人公だということが分かるようになり、そして、御座の祝福の主人公として一日一日を歩くようになうでしょう。その勝利を心から祈りたいと思います。

（祈り）

恵み深い天の父なる神様。イスラエルの民がカナンに入って、カナンの部族を拒否する部族を聖絶するようにと言われ、キリストの他に希望はないし、そして、神の民の存在の理由が福音宣教にあることを明確に、また刻印させる神のみむねを今日礼拝を捧げているひとりひとりが自分の心にしっかりと受け止めることができるように祝福を与えてください。このメッセージがひとりひとりにその通りに動いて働いて成就して、あなたはなぜ生きるのかという質問に対して一秒も迷わずに福音宣教と堂々と自負を持って言えるように祝福を与えてください。イエス・キリストの御名によってお祈りいたします。アーメン